

Title	設立75周年記念事業の記録
Sub Title	
Author	鈴木, 秀美(Suzuki, Hidemi)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2023
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media and communications research : annals of the Institute for Journalism, Media & Communication Studies). No.73 (2023. 3) ,p.171- 173
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20230300-0171

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

設立 75 周年記念事業の記録

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
副所長 鈴木 秀美

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所（略称メディアコム）は、1946年10月1日に新聞研究室としてスタートして以来、新聞研究所、メディア・コミュニケーション研究所と名称変更を経て、2021年に設立75周年を迎えた。

メディアコムでは、2018年7月に設立75周年記念事業企画委員会を設置し、2021年度の事業として、記念式典と記念シンポジウムの開催、『七五年史』の刊行などの準備を進めてきた。2019年には、『七五年史』編集委員会が組織された。しかし、2020年春に本格化し、2021年まで続いた新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、予定していた設立75周年記念事業は2022年度に延期されることになった。

とはいえ、メディアコムは、2021年10月30日、メディアコムの同窓会組織である綱町三田会70周年記念講演会を、メディア・コミュニケーション研究所75周年記念プレイベントとしても位置付けて共催した（オンライン開催）。第1部では、福澤克雄氏（TBSテレビドラマディレクター、演出家）に「慶應ラグビーと『半沢直樹』」というテーマで講演していただいた。第2部のパネルディスカッション「メディアビジネスとコンテンツ制作の進化」では、瀬下英雄氏（綱町三田会代表幹事）の司会の下、福澤克雄氏に加えて、木戸英晶氏（IMAGICA GROUP 顧問、前 ADK 取締役会議長）、児玉隆志氏（プライム・ビデオ ジャパンカンントリーマネージャー）が登壇。活発な議論が交わされた。

2022年度となり、メディアコムは、本格的な設立75周年記念事業の第1弾として、『慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所七五年史』を6月30日に発行した。『七五年史』編集委員会は、山腰修三法学部教授が委員長を、大石裕慶應義塾大学名誉教授、李光鎬文学部教授、都倉武之福澤研究センター准教授が委員を務めた（肩書はいずれも発行時のもの。なお、山腰修三教授は、2021年9月、メディアコムから法学部政治学科に転籍）。編集委員会は、当初、2021年に開催予定だった設立75周年記念式典で『七五年史』を配布することを目指していたが、記念式典の開催が延期されたことにもない、刊行時期も遅らせることになった。

『七五年史』には、1996年刊行の『新聞研究所五十年史』をもとに、その後の25年にわたる「メディアコム」の歩みが新たに収録された。なお、『七五年史』では『五十年史』

巻末に収録されていた資料のうち年表のみを更新し、『五十年史』巻末のその他の資料は、その後の25年分の新たなデータとともに、メディアコム公式サイトでアーカイブ化した(<https://www.mediacom.keio.ac.jp/75thkinenshi/>)。資料編は、①『新聞研究所五十年史』巻末資料「規程集」、②『新聞研究所五十年史』巻末資料「カリキュラム」、③『新聞研究所五十年史』巻末資料「訪問教授・研究員一覧」、④メディアコムカリキュラム(1997年度以降)、⑤メディアコム訪問教授・訪問研究員一覧(1996年9月以降)からなる。

メディアコムは、設立75周年記念事業の第2弾として、2022年7月2日、三田キャンパス西校舎ホールにて、日本経済新聞社と米コロンビア大学ジャーナリズム大学院との共催により、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所と早稲田大学ジャーナリズム大学院の協力の下、学生応援プロジェクト「これからのジャーナリズムを考えよう 戦争と報道テーマに」(メディアコム設立75周年記念シンポジウム)をハイブリッド開催した(メディアコム側責任者：山本信人法学部教授、烏谷昌幸法学部教授)。角谷暁子氏(テレビ東京アナウンサー)が司会を務めた。

伊藤公平塾長による主催者挨拶(ビデオ登壇)とアズマツト・カーン助教授(コロンビア大学ジャーナリズム大学院)の開演のことばに続いて、ブルース・シャピロ氏(ジャーナリズムとトラウマのためのダートセンター所長)が基調講演「危機と暴力の報道現場で進む革新」を行った。その後、2つのパネルディスカッションが開催され、登壇者の間で活発な議論が交わされた。1つめのパネルディスカッション「戦争報道～いま現場で何が」には、アズマツト・カーン助教授に加えて、原田亮介氏(日本経済新聞社論説主幹、モデレーター)、マイケル・ピール氏(Nikkei Asia 副編集長)、小川知世氏(日本経済新聞社編集 国際報道センター記者)が登壇した。2つめのパネルディスカッション「メディア化する戦争の時代に生きる」には、本塾の山本信人教授(法学部、モデレーター)、廣瀬陽子教授(総合政策学部)、津田正太郎教授(メディアコム)に加えて、村山恵一氏(日本経済新聞社コメンテーター)が登壇した。大石裕慶應義塾大学名誉教授による総括をもってこのシンポジウムは終了した。なお、日本経済新聞は、このシンポジウムについて、7月3日(朝刊)に概要を報道し、7月20日(朝刊)に詳細を記事化した。また、NIKKEI LIVEのアーカイブによりシンポジウムの収録動画が一般公開された(<https://www.nikkei.com/live/event/EVT220603001/archive>, 最終閲覧2023年1月15日)。

設立75周年記念事業のメインとなるイベントとして、メディアコムは、2022年9月24日、三田キャンパス西校舎ホールにて、「設立75周年記念式典および記念座談会」をハイブリッド開催した(責任者：鈴木秀美メディアコム教授、李津娥メディアコム教授、津田正太郎メディアコム教授)。司会はメディアコム研究生の小野桃果さんと川村菜々花さんが務めた。このイベントの事前準備と当日の運営にあたっては、メディアコム事務室の清水泰子さんと本間多佳子さんが多面にわたってサポートしてくださった。

記念式典では、伊藤公平塾長、澤井敦メディアコム所長(法学部教授)、瀬下英雄氏(綱町三田会代表幹事)の祝辞に加え、メディアコム研究生が制作した動画「メディア・コミュニケーション研究所75年の歩み」を上映した。この動画は、新聞、テレビ、出版、広告の各メディアで活躍する、世代の異なるOBOGや、研究者として活躍するOGに研究生

がインタビューし、それを編集したもので、参加者一同、取材に応じてくださった皆さんのお話しを通じて、メディアコム75年の歴史を振り返ることができた。

なお、会場参加者には、メディアコム研究生がデザインした不織布バッグ（2種類）を記念品として配布した（デザインはメディアコム研究生から公募した）。

後半の記念座談会では、津田正太郎教授の司会の下、「ソーシャルメディア時代のジャーナリスト教育」をテーマに、現代のメディアが直面している課題について活発な議論が交わされた。登壇者は、大石裕慶應義塾大学名誉教授、中島みゆき氏（毎日新聞記者）、能條桃子氏（NO YOUTH NO JAPAN 代表理事）、簗智広太氏（BuzzFeed Japan 記者）、三浦英之氏（朝日新聞記者、ルポライター）だった。なお、当日午前中には、津田正太郎教授の司会により、三浦英之氏を講師とするメディアコム研究生のための「特別ゼミ」も開催された。

メディアコムでは、「設立75周年記念式典および記念座談会」を録画し、2022年11月下旬、「設立75周年記念式典」の動画をメディアコム内に限りインターネットで公開した（公開期間2023年3月31日まで）。また、12月上旬、「設立75周年記念座談会」の動画とともに、同日の記念式典で上映された「メディア・コミュニケーション研究所75年の歩み」の動画制作のため、研究生が行ったメディアコムOBOGに対する取材の成果をお一人ずつの動画として、塾内に限りインターネットで公開した（公開期間2023年3月31日まで）。

なお、メディアコムの紀要は、2021年3月発行の71号から表紙デザインを変更した。メディアコムの紀要「メディア・コミュニケーション」は、1998年、それまでの「新聞研究所年報」から名称が変更されて現在に至っている。紀要の名称変更にあたって、メディアコムは、1998年刊行の48号から、紀要のサイズをそれまでよりも大きいA4判とし、表紙には紀要の制作を依頼した「株式会社さとう印刷社」のデザイナーが描いたデザインを用いてきたが、2020年、同社が事業を終了し、解散することになった機会に表紙デザインを見直して、71号から現在の表紙デザインとした。メディアコム紀要の表紙デザイン変更の経緯もここに記録しておくことにする。

1年遅れになったものの、メディアコムが設立75周年記念事業を無事に執り行うことができたのは、メディアコムの所員の先生方、事務室の皆さんおよび研究生の皆さんや綱町三田会の会員の皆さんをはじめ、各事業にご協力くださった多くの皆さんのおかげである。この場をお借りして深い感謝の意を表したい。